

## (7) 北 陸



北陸地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなかで、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

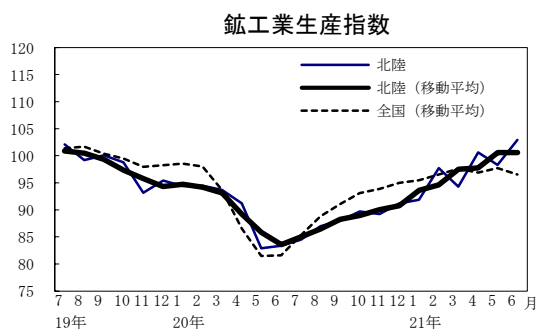
### 前回からの主要変更点

	前回（令和3年6月）	今回（令和3年8月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなかで、一部に弱さがみられるものの、持ち直している	↑
鉱工業生産	持ち直している	増加している	↑
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は増加している。

4－6月期の鉱工業生産は、生産用機械は金属加工機械等が増加したこと、電子部品・デバイスは電子デバイス等が増加したこと等により、前期比6.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	15.3	9.4	9.3	10.2	4.6	▲2.6
化学	14.0	▲6.0	0.9	▲7.5	▲1.4	▲0.3
生産用機械	11.8	27.5	16.6	28.7	▲17.1	27.1
金属製品	8.1	1.2	3.9	3.6	▲4.7	6.2
繊維	6.9	1.9	4.3	2.4	0.5	4.7
鉱工業	100.0	5.1	6.3	6.7	▲2.3	4.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4－6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

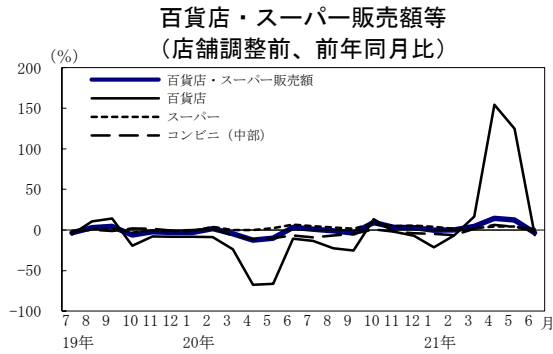
個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

4-6月期は前期比1.8%増となった。月別にみると、4月は前月比0.4%増、5月は同1.5%減、6月は同2.2%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比7.1%増(前々年同期比0.3%増)となった。月別にみると、4月は前年同月比14.4%増、5月は同12.4%増、6月は同3.2%減となった。



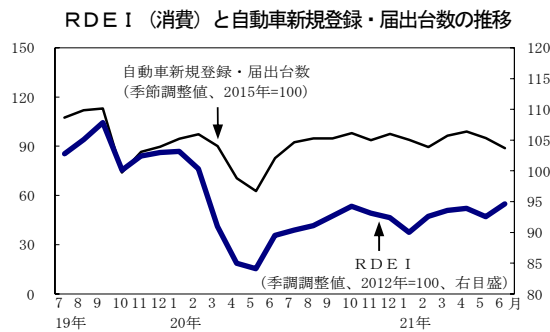
	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDE I (消費*1)	1.8	0.4	▲1.5	2.2
百貨店・スーパー(*2)	7.1	14.4	12.4	▲3.2
百貨店(*2)	53.1	154.4	124.8	▲6.3
スーパー(*2)	1.8	4.2	4.3	▲2.6
コンビニ(*2)	3.7	6.2	4.0	1.1
乗用車(*3)	29.2	40.3	51.6	7.1
(季節調整値) (*3)	1.1	2.7	▲4.1	▲6.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

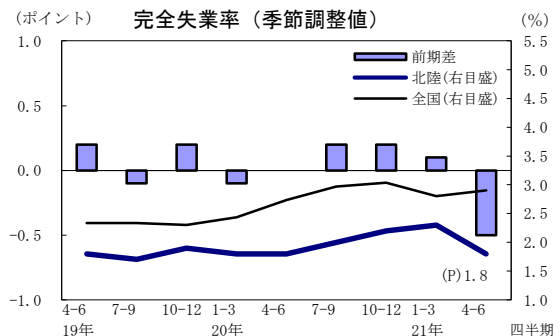
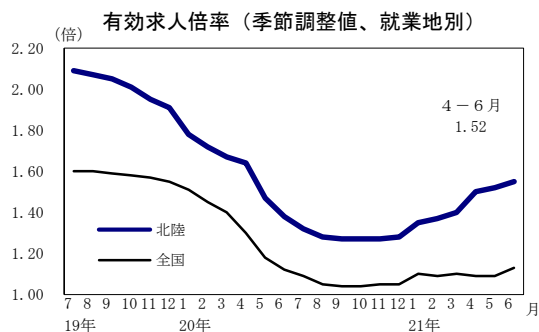
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。

2. 4-6月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

7. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連		・全体として来客数と販売量が伸びていない。県内の感染状況が落ち着いたこともあり、7月上旬から中旬にかけては来客数と販売量が伸びたものの、4連休とそれ以降は鈍化しつつある。県内と隣接県の新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあり、影響が出始めてきている。東京オリンピック効果でスポーツ用品やアウトドア関連等に良い影響が出ており、販売量が増加している(その他小売[ショッピングセンター])
		・東京オリンピック、新型コロナウイルスの影響による在宅率の上昇に伴い、家庭内消費が拡大している。気温の高い日が続く、夏物商材の販売量が伸びている(スーパー)
		・集客面では大きな変化はみられないが、マイカーでの遠出自粛の影響なのか、メンテナンス関連の動きがこの数か月落ちてきている。好調だったドライブレコーダーも下がってきている。依然として車両販売も厳しい状況が続いている(自動車備品販売店)
企業 動向 関連		・新型コロナウイルス及び自動車業界の半導体不足の影響が継続しており、今一つ回復に力強さが欠ける状況が続いている(プラスチック製品製造業)
	×	・国内のファッション衣料は依然として厳しいものの、自動車用途やアウトドア関連は受注が回復している。海外ファッション衣料についても回復の兆しが出てきている(繊維工業) ・東京オリンピックは開催されたものの、やはり今月に入ってから緊急事態宣言が発出され、感染者数の増加率も今までにないもので、更にスピードアップしている。2~3か月前に期待していた取引先での来客数は思うほど伸びていないようである(精密機械器具製造業) ・一部取引先から前年に近い金融支援要請が来ている。緊急事態宣言が続き、取引先では売上確保ができない状態が続いている。東京オリンピックが開幕したとはいえ、無観客状態であり、経済への影響は限定的である(金融業)
雇用 関連		・新型コロナウイルスの影響で採用を控えている企業が多く、求人数も減少している(人材派遣会社) ・建設業が伸びている。また、飲食、宿泊サービス、卸小売業なども若干ながら伸びてきている(職業安定所) ・求人数が減っている(求人情報誌製作会社)
その他の特徴 コメント		：例年にはない4連休があり、予想以上に盛況である(コンビニ) ：県内割引キャンペーンが復活し、客は少し戻ったが、前年の売上とほぼ変わらない状態である(旅行代理店)
分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連		・ワクチンの効果に期待したいが、まだまだ新型コロナウイルスの波に翻弄されそうである(一般レストラン)
		・変異株の拡大により、緊急事態宣言の発出圏内での場外発売が中止になることが予想され、発売機会の減少に伴って売上も減少する可能性がある(競輪場)
企業 動向 関連		・受注状況は、今後も変わらず推移するとみている(化学工業)
		・駅周辺の再開発や、新型コロナウイルスの感染状況が良くなることなどを見越しての投資や新規事業が進むとみている(司法書士)
雇用 関連		・求人数について、状況が変わる要素が見受けられない(学校[大学])
その他の特徴 コメント		：ワクチン接種率の向上に伴い、行動規制が緩和され、旅行に出掛ける人も増えることとみている。また、秋以降にGo Toキャンペーンの再開も検討されているようで、今後期待ができる(観光型旅館) ：新型コロナウイルスの終息が依然として不透明である。資材価格の動向も先行きは依然として不透明である(建設業)

(D I) 現状・先行き判断D I (北陸)の推移(季節調整値)

